

## ★森のおはなし探検隊★

5月は、日本滞在15年のネイティブスピーカーによる、探検形の楽しい且つとっても勉強になる動物英語クイズ!

『動物 A to Z』

- 開催日時：5月11日(日) 13:00～
- 開催場所：子どもホール
- 参加費：無料(別途要入園料)・事前申込不要

ABC...

## どうぶつ ぶつぶつ はなしてる

～よしざわようこ 油彩画と版画展～

厳しい自然のなかで生きる動物たちのけなげさとやさしさ。ふとした瞬間に見せてくれるユーモラスな表情やペーソスあふれるまなざし…。

動物たちがぶつぶつと何を話しているのかを想像しながら描かれた、やさしいタッチの作品たちをお楽しみください。

- 展示日時：4月6日(日)～6月15日(日)  
9:00～17:00

※5月3・4・5日は19:00まで開園 6月3・10日(火)は休園

- 場所：管理センター 2階ロビー
- 観覧料：無料(入園料は必要)
- 展示内容：油絵約25点、版画約15点、植物画約10点、  
英字新聞に掲載されたことわざ約25点

天候などの都合により変更・中止することがあります。どうぞご了承下さい。  
詳しくは、HPもしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問い合わせ下さい。

# 森の仲間たち



「到津の森公園」公園事務所  
北九州市小倉北区上到津 4-1-8  
Tel 093-651-1895 〒803-0845  
<http://www.itozu-zoo.jp/>

# 森のお便り 5月号 2014年

発行・編集 「到津の森公園」「森の仲間たち」14年5月1日発行 通巻135号

## 到津の森調査隊「春の図鑑作り」

到津の森公園の郷土の森林(もり)エリアで、約1時間昆虫などを探し、見つけた生き物をレクチャールームで観察しながら調べ、図鑑にまとめます。

- 開催日時：5月24日(土) 13:00～14:30
- 開催場所：里のいきもの館レクチャールーム・郷土の森林
- 定員：20名
- 事前申込：5月3日から電話にて先着順に受け付け
- 参加費：無料(別途要入園料)※虫カゴ・アミ無料貸出

## 里山いきものがかり

「生き物を探して調べよう！」

里のいきもの館レクチャールームで、昆虫を捕まえるための虫かご・虫取あみや図鑑の貸し出しを行います!  
時間内は、飼育スタッフが質問にも答えます!

- 開催日時：5月25日(日) 11:00～12:00  
13:00～14:00
- 開催場所：里のいきもの館レクチャールーム、  
郷土の森林
- 事前申込：不要
- 参加費：無料(別途要入園料)



# 花暦葉月

百花繚乱の四月から少し落ち着きムードの「到津の森」の木々のシーズンとなりました。

わき立つように茂る若葉の陰に、地味ながら生命力いっぱいの花を見つけることができます。タラヨウやコガネモチ・ナナミノキ等モチノキ科の面々、カクレミノ・ニシキギ・マユミ等、淡緑の小花がいっぱいです。シイ・アラカシ・ウバメガシ・シラガシ・クスギ等、ドングリをつけるブナ科の木には、新枝の先に雌花の花穂が立ち上がり、新枝の付け根からは雄花の花穂が垂れ下がっています。人間には、生臭いと思えない花の香りに呼び寄せられて、蜂などが群がっている場面に出くわすこともありますね。セイヨウイボタノキ(シマウマのフェンス近く)は白い小花の穂をたっぷりつけて、風に揺れています。

新芽観察の一押しは「姿見の池」を見下ろすウッドデッキです。木の上部にしかつかないシイやアラカシの新芽や花の様子が、手に取るように観察する事ができます。同じくクスノキの小花から漂うよい香りを嗅ぐ事も、新しい体験になるでしょう。

「郷土の森」のクスノキに巻き付くテイカズラ、カンムリヅル舎前のモリシマアカシア、ピオトープのエゴノキ、ゾウ舎前のニオイバンマツリ等、静かな美しさの木々の花も見られます。

先日野草園近くで、コバンソウが花をつけているのに気付きました。ヨーロッパ原産で明治時代に観賞用に導入されたといわれていますが、スンスンと伸びやかな葉、細いわらで編んだような花穂は小判形で、しだいに黄金色となり、愛される雑草！と言えるでしょう。私は同じ仲間のヒメコバンソウ(江戸時代にヨーロッパより帰化)が、懐かしくてたまりません。

コバンソウと同じく、イネ科独特の姿でやや淡緑。全体もちよっと小ぶり。花穂は小さく三角形で、まさにおむすびそのもの。鈴に見立てて、オオスズカヤとコスズカヤ。風に揺れる姿からオオユレクサとコユレクサとも呼ばれるとの事。

懐かしいと言ったのは、幼い頃ヒメコバンソウを抜き取って振ると、カサカサと微かに音がするのをいつまでも楽しんでいたのを思い出すからです。全く単純で、のんびりした子供だったのですね。

文：花咲くおばさん

## 森のなかま・ジェフロイクモザル

じっくり『見る』と『見えてくる』もの

2012年の11月に埼玉県東武動物公園からやってきたジェフロイクモザル。毛色が黒いオスの『ミズキ』とクリーム色のメス『ハルヒ』が到津の森公園に仲間入りしてから、もうすぐ2度目の夏がやってきます。

英語でも『Spider monkey』と呼ばれているクモザル。しっぽで枝や食べ物を器用に掴むことができるのが特徴で、しっぽだけで枝にぶらさがっている姿は、おしりから出した糸にぶらさがるクモさながらです！このしっぽが5本目の脚として自由自在に動くことで、不安定な枝の先でも動き回ることができます。

そしてもうひとつの大きな特徴が、手に親指がないこと！枝から枝へとブラキエーション(うんてい運動)で移動する時は、4本指をフックのように枝にひっかけて移動していきます。樹冠の世界でお隣りさんのフクロテナガザルは、指が5本あるにも関わらず、クモザルと同じように4本の指だけで移動しています。ブラキエーションで移動していくサルたちにとっては、どうやらこれが効率のいい手の使い方ようです。クモザルはそんな生活を続けているうちに親指がいなくなり、ついには退化したと考えられています。

これだけはっきりとした特徴ならお客様もすぐに気づきそうなものですが、スタッフが解説して初めて『あっ、ホントだ！』という方が多いのが現実



飼育展示係 福井 智太

です。このように、なんとなく眺めていたらなかなか気づかない物事が、動物園にはあふれています。いつも見慣れているありふれた動物や植物も、あらためてじっくり観察してみると新しい発見があるかもしれません。じっくり見る、ただそれだけで、動物園を何倍も楽しんでいただけたらと思うのです。